

◇◇地域でのイノベーションの波◇◇

NRI 未来創発センター2030 年研究室では、「イノベーションプログラム」という地方創生のための新事業に取り組んでいる。従来とは異質な切り口を持つ社会課題挑戦型のビジネスモデルを率いる革新的経営者（＝革新者）をさまざまな分野から開拓し、対話を通じて革新者に特有のイノベーションスキルを見つけ出し、その暗黙知を言語化してきた。また、革新者と互いに協力し合えるビジネスの友のような関係を構築し、今では100人を超える革新者をつながり合っている。「イノベーションプログラム」は、この100人の革新者と、全国各地域で新しいことに自ら挑戦しようとする“主体性”を持った「地域に根をはる火の玉人材」とを交流させ、刺激し、化学反応を引き起こし、地域の“稼ぐ力”を生み出そうとする、混血型の事業創発プログラムである。

このイノベーションプログラムを全国で初めて導入したのが北海道十勝で、2015年にスタートした「とかちイノベーションプログラム」（以下、「TIP」という）は、今年で3期目を迎えている。TIP 第1期、第2期では、合わせて15の新しい事業構想が生まれた。これらの事業は、現在も事業化に向けて挑戦中であり、現在、五つの事業が会社設立に至り、本格的な事業展開に入っている。

3期目となる今年、TIPは“地域自走型への移行”という新しいミッションに挑戦している。これまでも参加者との調整等は、プログラムの主催者である帯広信用金庫をはじめとする地域事務局が担ってきたが、今年からは、これまでNRIが中心に担ってきた、プログラム各セッション（全9回）の企画・設計や当日のファシリテーション等も地域メンバーとともに進めている。ここで中心的な役割を果たしているのが、TIP 第1期、第2期の卒業生5人である。この5人には、十勝を愛する気持ちと、TIPに対する理解、信頼、情熱が人一倍強い、という共通点がある。

5人が加わったことで、参加者全体のコミュニティの熱量が一気に高まった。第3期の参加者はついに100人を超え、十勝の“挑戦者たちのるつぼ”ができつつある。各セッション前後に行う事務局ミーティングでは、地域メンバー同士での熱い議論が展開され、SNSを活用したやりとりが深夜に及ぶことも珍しくない。イノベーションプログラムに限らず、地方創生プロジェクトの成功の鍵は、地域人材の“主体性”にある。そして主体性は情熱や思いとともに波及する。TIP 卒業生5人の加入により、参加者や事務局メンバーの主体性に、さらに火が付いたのだと思う。

「イノベーションプログラム」の導入第2号として、今年、沖縄で「琉球イノベーションプログラム」が開催され、沖縄への思いがあふれる、八つの事業構想の誕生とともに、9月23日に最終セッションを終えた。そして、TIP 第3期は、いよいよ本格的な事業創発フェーズに入り、11月17日に最終セッションを迎える。今年はどうな面白い夢のある事業構想が生まれるのか、緊張感が高まるとともに期待に胸を膨らませている。十勝と沖縄、日本の北と南から、イノベーションの波を全国に広げていきたい。

平成 29 年 10 月

社会システムコンサルティング部
ソーシャルデザイングループマネージャー
兼 未来創発センター 2030 年研究室 水石 仁